

研究課題名：

北海道内で分離されたヒト由来薬剤耐性志賀毒素産生性大腸菌及び赤痢菌の分子疫学解析

研究の目的と方法：

薬剤耐性菌は多分野が連携すべき重大な公衆衛生上の課題として認識され、国内外で様々な動向調査が行われています。しかし、各地域で問題となっている薬剤耐性菌の種類や脅威の程度は一様ではありません。薬剤耐性に関する既存の調査事業から得られる情報には限りがある上、志賀毒素産生性大腸菌(STEC)等の病原性細菌はこれらの事業の多くで対象外であることから、院内感染の原因菌と市中感染の病原性細菌で認められる薬剤耐性の関連性は不明です。そこで、この研究では、北海道立衛生研究所で検査した STEC 及び赤痢菌の薬剤耐性株とカルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)の全ゲノム解析を実施し比較することで、道内の STEC 及び赤痢菌における薬剤耐性拡散の実態調査と公衆衛生上のリスク評価を行うことを目指します。

研究の対象者及び対象期間：

令和6年(2024年)10月31日の研究終了以前に、感染症法及び食品衛生法に基づく病原体検査(行政検査)、または調査研究用の試料として保健所及び研究協力機関(臨床検査機関等)から北海道立衛生研究所に搬入された STEC、赤痢菌、CRE を研究対象とします。したがって、これらの菌株が分離された患者及び無症状保菌者の方々が対象者となります。

研究に利用する試料・情報：

感染症法及び食品衛生法に基づく病原体検査(行政検査)、または調査研究用の試料として北海道立衛生研究所に提供された菌株を用います。

菌株が分離された患者及び無症状保菌者の方々にに関する情報は、感染症法に基づいた感染症発生動向調査の届出事項や保健所による実地疫学調査結果等を、個人を特定できない形で解析に用います。また、調査研究用試料には、もともと個人を特定できる情報の記載がありません。したがって、対象となる患者及び無症状保菌者の方々の不利益にはなりません。

研究機関：

北海道立衛生研究所

試料・情報の管理について責任を有する者：

試料の管理:感染症部細菌グループ 主査(細菌感染症) 小川恵子

情報の管理:感染症部細菌グループ 主査(細菌感染症) 小川恵子

利益相反について：

本研究に関連し、開示すべき利益相反状態にある企業等はありません。

お問い合わせ先:

北海道立衛生研究所

感染症部細菌グループ 主査(細菌感染症)

小川恵子

〒060-0819 北海道札幌市北区北 19 条西 12 丁目

TEL:011-747-2711 FAX:011-737-9476